

## 「FAVA大会」と「ワンヘルス」について議論が交わされました!!

令和4年12月7日（水）、福岡県議会12月定例会の自民党代表質問において、花田尚彦議員が「FAVA大会の総括とワンヘルスの今後の展開」に関して、服部誠太郎知事に質され、知事は以下のように答弁されました。



### 【質問1】FAVA大会の総括について

ワンヘルスの世界的な先進地を目指している服部知事におかれては、**今回のFAVA大会と一連の事業をどのように総括しているのか**、所信をお示し願います。

### 【答 弁】

今回のアジア獣医師会連合（FAVA）大会には、国内外から獣医学・医学・環境分野の関係者をはじめ県内の大学生や高校生など約2,000人が参加されました。

また、同時開催した「“One Health”国際フォーラム」には約800人、「農林水産まつり」には約8万人の県民の皆様にご参加をいただきました。

FAVA大会では、参加した海外の獣医師から、「ワンヘルスの森やワンヘルス認証制度といった本県の取組は、世界に向けワンヘルスを発信するモデルとなる素晴らしいものだ」といったお声や、大学生からは、「ワンヘルスが身近な取組だと分かった。出来ることを考え、行動していきたい」などの声が聞かれました。

国際フォーラムでは、「**ワンヘルスの今後の展望**」をテーマにご講演いただきました世界医師会、世界獣医師会の両会長から、政治、行政の取組の重要性が強調され、他に先駆けて、条例を制定し、ワンヘルスを推進している県議会や県の取組を高くご評価いただきました。

特別シンポジウム、国際フォーラムや県民講座などの一連の事業を通じまして、本県におけるワンヘルスの先進的な取組を広く発信できたものと考えております。

FAVA大会の最終日には、人獣共通感染症対策、薬剤耐性対策、動物と人の共生社会構築のための地球環境の保全の推進などが盛り込まれました「**アジアワンヘルス福岡宣言2022**」が採択をされました。

**福岡の名が盛り込まれた宣言が、世界に向けて発信されましたことは大変光栄であり、意義深いこととさせていただきます。**

このように、本大会は、福岡県をワンヘルスの世界的な先進地としていくうえで、大きな弾みとなったと考えております。



## 【質問2】 ワンヘルスの今後の展開について

F A V A大会の大きなレガシーである「アジアワンヘルス福岡宣言2022」、そして、「F A V Aワンヘルス福岡オフィス」の設立を踏まえ、**福岡県として、ワンヘルスを今後どのように展開していかれるのか**、知事の意気込みをお聞かせ願います。

### 【答 弁】

大会開催直前の11月9日、F A V A会長に就任されました藏内会長と私で、「F A V Aワンヘルス福岡オフィス」の設立に関する覚書を締結いたしました。

福岡オフィスは、来年度、アクロス福岡に設立され、「アジアワンヘルス福岡宣言2022」に掲げられましたワンヘルスの実践活動をリードするため、アジア各国からワンヘルスに関する情報を集積するとともに、世界動物保健機関、国連食糧農業機関などの国際機関と連携し、人獣共通感染症対策や薬剤耐性対策に取り組むこととされております。

**今後、県は、この福岡オフィスと連携いたしまして、ワンヘルスセンターの中核施設となる保健環境研究所を中心とした人、動物、環境の各分野に関する一体的な調査・研究を推進いたしますとともに、九州地方知事会として国に要望しております「アジア新興・人獣共通感染症センター」の九州への誘致に、一層取り組んでまいります。**

また、引き続き小・中・高等学校でワンヘルス教育を普及してまいります。

今後はさらに、県立三大学にもワンヘルスアプローチの考え方を広げていきますため、本県と三大学の教職員で構成する検討チームを立ち上げ、ハワイ大学の先進事例を調査するなど、ワンヘルスの推進を担う人材を育成していくための具体的な方策の検討を進めていきたいと考えております。

加えまして、県内市町村に対しましては、今年9月議会で議員提案により制定されました「**ワンヘルスの実践促進に関する条例**」に基づき、市町村の取組に対する具体的な助言などの支援を行い、ワンヘルス推進宣言市町村を増やすとともに、**九州各県に対しては、水環境中の薬剤耐性菌実態調査や野生動物におけるS F T S感染状況調査など、本県の先進的な取組の実施について提案をすることにより、ワンヘルスの取組拡大を図ってまいります。**

このような取組を進めていくことにより、日本のみならず、アジア、そして世界のワンヘルスの推進に貢献してまいります。

2022年12月12日

福岡ワンヘルス協議会・事務局